

県中教研 社会科部報

第50号

発行所 福島県中学校教育研究会社会科研究部
 発行人 大橋 誠 寿
 発行 平成29年3月1日

内容・目次

- 平成29年度以降の研究主題・副主題の解説…………… 2～4
- 県中教研県北大会を終えて…… 5
- 県中教研県北大会に参加して… 5

平成28年度の活動を振り返って



福島県中学校教育研究会社会科専門部長 大橋 誠寿

○ 社会科の先生の定数が……

平成28年度の県大会は、県北地区での開催でした。大震災と原発事故の後、平成24年度から県大会が再開されましたが、そこから4年が経過し県大会が県内を一巡しました。平成29年度の開催地区は「会津」、30年度「いわき」31年度「県中・南」32年度「県北・相双」と、今後しばらくの間は、4年に1回のペースで県大会を担当することとなります。回転が速くなったことの影響は色々あります。デメリットばかりを心配するのではなく、メリットを最大限に生かした県大会運営と研究実践の深まりを目指していきたいと考えます。

また、少子化に伴う学級数の減少と五教科の授業時数との関係で、県内各地において、一校あたりの社会科教員数が減少する傾向が強まっています。つまり、今まで社会科教員が3人いた学校が、次年度からは2人になってしまう、という現象が数多く発生しています。あわせて、社会科教員が3人以上在籍する中学校は、きわめて少数派となってしまいました。

このような状況をふまえて各地区での研究実践を進めていただきたいと思います。

○ 29年度県大会と第54回東北社会科教育研究協議会

平成29年10月11日、福島県で開催されます。会津地区での開催と平成25年度末に決定しておりましたが、この度、坂下町立坂下中学校が会場校と決定しました。会場校の板橋校長先生をはじめ、両沼支部

社会科部会の皆様はもちろん、会津地区の皆様にもお世話になります。県内全ての支部が協力し、**オール福島**として大会の成功にむけて一致団結、絶大なご協力をお願いします。

○ 東北理事会の報告

平成29年10月10日(火)、「東北社研理事会」会津若松市開催と決定しました。各支部の部長さんは全員参加の予定です。各支部で旅費確保の検討をお願いします。

○ 福島県「県中教研」のホームページの開設

社会科部会では、平成25年度からホームページを立ち上げ、運用していましたが、このほど、県中教研でもホームページを立ち上げました。よって現在の社会科部会のホームページも県中教研のホームページの中に移設します。それに伴い、現在の社会科のホームページは「東北社研の情報交換」及び「全国大会実行委員会」のホームページへと模様替えしました。

○ 新学習指導要領の告示に向けての意見公募中です

次年度、平成29年度は新しい主題設定の年にもあたりますので、しっかりと改訂の趣旨や内容について把握する取り組みが重要です。その一方、私たち社会科部会の研究主題のキーワードは「立ち向かう力」です。生徒に主体性を求める私たち社会科教員自身が、教えのプロとして、学説や流行などに惑わされる事なく、教育改革の動向に自ら立ち向かい、自信を深めて教壇に立ちたいと考えています。キーワードをかざしての空虚な議論ではなく、社会科の教科目標や指導内容をふまえた、日々の実践に裏打ちされた議論を積み重ねて行きましょう。

平成28年度福島県中学校教育研究会社会科研究部組織一覧

部長 大橋 誠寿 副部長 大木 修・佐藤 祐也・澤崎 俊哉・早川 良一・古山 隆一						
支 部	支部長名	勤務校	支 部	支部長名	勤務校	
福 島	大 橋 誠 寿	蓬 萊 中	北 会 津	馬 場 勇	大 戸 中	
伊 達	大 木 修	松 陽 中	耶 麻	澤 崎 俊 哉	山 都 中	
安 達	渡 邊 健 順	岩 代 中	両 沼	栗 城 敏 彦	三 島 中	
郡 山	家 久 来 三 典	三 穂 田 中	南 会 津	室 井 正 之	南 会 津 中	
岩 瀬	高 橋 政 広	岩 瀬 中	相 馬	早 川 良 一	磯 部 中	
石 川	川 口 和 彦	浅 川 中	双 葉			
田 村	佐 藤 祐 也	三 春 中	い わ き	古 山 隆 一	江 名 中	
東西しらかわ	星 喜 博	東 北 中				
事務局 総務 幕田 秀明 (附属中) 庶務 鶴巻 厚保 (坂下中) 会計 村松 龍 (附属中)						

◇◇お知らせ◇◇

○平成29年度主題研修会

- ・期 日 平成29年5月23日(火)
- ・会 場 郡山市立明健中学校(予定)

○平成29年度県中教研研究協議会会津大会 第54回東北社会科教育研究協議会福島大会

- ・期 日 平成29年10月11日(水)
- ・会 場 会津坂下町立坂下中学校

研究主題及び研究副主題の解説

1 研究主題及び研究副主題

研究主題

社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうすればよいか

研究副主題

- 平成27年度 「社会的事象を多面的・多角的にとらえさせる指導の工夫」
- 平成28年度 「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」
- 平成29年度 「表現する力を高める指導の工夫」

2 平成28年度の研究成果

(1) 県大会授業の概要

研究2年次である本年度は、根拠を基に思考・判断する力を育てる授業づくりに取り組んできた。

本年度の県大会は福島市立北信中学校を会場に開催され、3名の先生方によって副主題に迫るための授業提案及び研究協議がなされた。

授業者	単元名
佐々木卓美	ヨーロッパ州（1年地理）
宍戸 隆志	欧米の進出と日本の開国（2年歴史）
佐藤 淳志	これからの人権保障（3年公民）

地理的分野では、EU加盟の利点とイギリスのEU離脱の決議からみえてくるEUの課題を考えることを通して、ヨーロッパの地域的特色についてまとめる授業を行った。具体的な数値・データなど、ゆさぶりを引き起こす資料を提示することで、多面的・多角的に思考・判断させ、主体的に課題を追究させる授業となった。

歴史的分野では、ペリー来航の目的と国内の対応とを総合的に考えさせることを通して、アメリカの要求への対応について、生徒に大名の立場に立って考えさせる授業を行った。自分の考えをホワイトボードに表明させることで意見交換が活発に行われ、それを基に最終意見をまとめることで考えの深まりがみられる授業となった。

公民的分野では、実際に行われた論争を取り上げることで景観権への興味・関心を高め、憲法や裁判の判例を通して、具体的な事例への判断について、生徒自身に考えさせる授業を行った。既習事項や写真資料を根拠とし、班で話し合い活動を行うことで、憲法や法令と現実社会のつながりについて実感できる授業となった。

三分野の授業とも、疑問や揺さぶりを引き起こす発問と資料提示の工夫、複数の視点で考察し、

判断をさせるなど、思考を深めさせるための手だてにも工夫がみられた。

しかし、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力を育てること、学びの振り返り、評価方法の工夫について課題が残った。

(2) 根拠を基に思考・判断する力を育てるために

県大会での提案授業や研究協議、各支部での取り組みを通して、様々な成果と課題を得た。部報49号で述べられている授業構築のポイントをもとに今年度の研究を振り返る。

① ねらいの焦点化の工夫

単元や1単位時間の学習のねらい、学習形態、思考・判断する力を育てるための手だてが明記された単元構造図を作成する支部が増えてきている。今後は、社会科で求められる資質・能力を加えた単元構造図等を作成することで、思考・判断・表現する力の育成に努めたい。

② 学習課題の工夫

様々な立場から追究したり、既習の知識や固定概念をゆさぶる学習課題を設定したりすることが、課題追究に有効であることが確認された。今後は、意思決定や価値判断を迫る学習課題の有効性やその学習過程について検証することで、さらに主体的に課題を追究する生徒の育成に努めたい。

③ 資料選定・活用の工夫

思考・判断する力を高めるためには、複数の視点から考察できる資料の選定が不可欠である。また、複数の資料を比較したり、関連付けたりすることで社会的な見方や考え方を深められることが検証された。

④ 学習形態の工夫

教師の適切な支援のもと、課題追究の過程で多様な学習形態が実践された。各支部の実践事例ではジグソー法などを取り入れることで思考・判断する力の高まりがみられた。今後は、さらに効果的な学習形態を活用して課題を追究できるように、意図的な班編成を行う必要がある。

⑤ 振り返りの工夫について

学習の節目として、自己評価を行い、生徒自身が自らの学びを振り返り、次の学びに向かうことができるようにすることが大切である。何を学んだのか、どんな力が身に付いたのか、自己の新たな課題を見つけるなど、生徒自身が自分の学びの過程を確認し、自ら学習をさらに進められるような振り返りを行う必要がある。

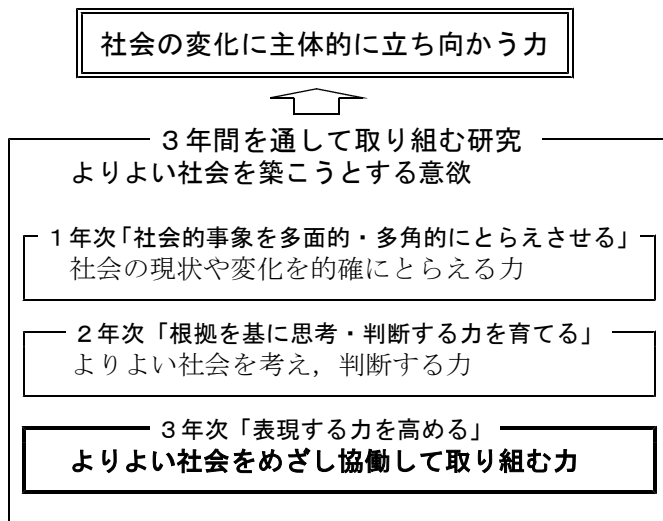
研究3年次では、上記の成果と課題を踏まえて、副主題「表現する力を高める指導の工夫」について研究を進めながら研究主題に迫りたい。

3 平成29年度研究副主題の解説

(1) 研究主題との関連

私たちは、社会の急激な変化がもたらす課題に直面したとき、課題解決に協働して取り組み、主体的に立ち向かう生徒の育成を目指して本研究を開始した。よりよい社会を築くために必要な力とは、主体的に考え行動する実践力である。中学生が主権者として社会で活躍する時に、率先して行動するための基礎力を養うことが大切であると考え、3年間の副主題を設定した。

【主題・副主題関連図】



社会の変化に主体的に立ち向かうためには、自分と異なる考えをもった人々と協働して諸問題を解決する力が必要である。そのために、根拠に基づいた自分の考えを分かりやすく論理的に表現する力が不可欠となる。3年次の「表現する力」とは、思考する力と判断する力を包含する総合的な力であり、この力は、主権者として意思決定する場面や社会の変化に主体的に立ち向かう場面で生かされる。下記のような内容で実践的な研究を進めたい。

(2) 3年次の研究副主題のとらえ方

① 「表現する力」について

社会科における表現する力を、下記のようにとらえたい。(文部科学省教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループより)

考察したことや構想したことを(ア)説明したり、それを基に(イ)議論したりする力

(ア)とは、資料に基づき根拠を明確にし、自分なりの見方や考え方を論理的に他者に伝える力である。(イ)とは、協働して自分の考えや集団の考えを発展させ、よりよい合意形成を図る力である。

表現する方法については、言語をはじめ統計資料や絵図、写真、構造図などを活用する。その際、視聴覚機器も積極的に活用させる。画一的な表現にとどまらず、授業のねらいや個に応じた表現方法の工夫に取り組みたい。

これらを意識して、普段の授業づくりを行っていききたい。

② 「表現する力が高まった」生徒の姿とは【個人の姿】

社会の現状や変化を的確にとらえるための思考・判断する力を基盤として、社会の在り方や人間としての生き方について、選択・判断・行動することができる生徒

【他者とのかかわりの姿】

社会の変化に主体的に立ち向かうために社会とのかかわりを意識し、他者と協働して課題を追究したり、解決したりすることができる生徒

授業では、主体的・対話的な深い学びを通して、社会の形成者や主権者として、よりよい社会への提言にも踏み込むようにしたい。

③ 「表現する力を高める」ための手だてについて【導入の場面】

- 学習課題を設定するために、生徒のレディネスを把握し、学習課題につなげるよう工夫する。
- 学習課題に対する自分の予想や考えをもたせるよう工夫する。
- 学習課題に対する生徒それぞれの予想や考えを共有できるよう工夫する。

【課題追究の場面】

- 根拠を基にして、自分なりの見方や考え方を構築することができるよう資料提示などを工夫する。
- 互いの見方や考え方を比較したり、検討し合ったりすることで、自分の考えを練り上げる場면을工夫する。
- 意図的に学習形態を編成することで、思考を深められるよう工夫する。

【振り返りの場面】

- 協働で追究したことを基に、自分の考えを再構築するため、考えの練り直しの場면을工夫する。
- 意思決定や価値判断を行う場면을工夫する。
- 評価基準に基づいた生徒の自己評価・相互評価などの多様な評価方法を工夫する。

各場面で、表現する力を高めるための手だてを有効に働かせるために、生徒の学習状況を的確に把握し、一人一人の個性を生かすことを大切にしていきたい。

(3) 授業を構築する際のポイント

実際の授業づくりでは、1年次と2年次の成果と課題を基に、以下の①～⑤を意識した授業づくりに努めたい。

① 単元構造図を用いた単元指導計画の作成

単元構造図等を作成して、単元や1単位時間における授業のねらい、表現する力を高めるための手だてを明確にすることで、指導内容全体を明らかにする。また、生徒の実態や社会科で求められる資質や能力、生徒が身に付ける力についても触れることでより効果的な単元構造図を作成したい。

② 学習課題の設定の工夫

追究意欲を引き出し、視野を広げ、振り返りを見通した学習課題の設定を工夫したい。

- 複数の立場から追究でき、意思決定や価値判断に迫ることができる学習課題
- 地域の身近な課題など、生徒にとって学ぶ必要感や切実感が感じられる学習課題

③ 学習の視点を広げ、整理させるための工夫

生徒が思考・判断するための資料選定・活用の工夫を行うことで学習の視点を広げたい。また、表現するために根拠（資料など）や理由を明確にして整理させることで、発表の時に活用できるように工夫したい。

- 教師による資料の作成、提示の工夫
 - ・生徒の多様な考えを引き出す資料や意思決定、価値判断をせまる資料
 - ・今までに学んだ知識や固定概念を揺さぶるような資料
- 生徒による資料の収集、選択
 - ・自分の考え、意思決定、価値判断するための根拠となる資料
- 思考・判断・表現した過程が一目でわかる構造的な板書やノート、ワークシートの作成

④ 学習形態や学習方法の工夫

協働で課題解決を図る効果的な学習形態や学習方法を工夫したい。その際、生徒の実態や学級規模を勘案しながら、明確なねらいに立った言語活動の充実を図っていききたい。

- ペア、グループ、学級全体での活動による考察

- 付箋紙やホワイトボードを活用した話し合い活動による考察
- ロールプレイングを用いて、立場を明確にした考察
- ディベートを取り入れた肯定・否定に分かれた考察
- パネルディスカッションやポスターセッションを取り入れた複数の立場からの考察

⑤ 振り返りの工夫

授業を振り返り、生徒自身が自分の見方や考え方がどのように変化したのかを自覚し、何を学んだのか、実際の社会で活用できることは何か、どのように行動したいかなどに気づかせるために次のような工夫をしたい。

- 振り返りの時間を確保し、自分の考えの変化やその理由を整理する時間の確保
- よりよい社会づくりを目指して、学んだことと実際の社会との関連付けを図り、価値判断したり主体的に行動したりするための手だての工夫

これ以外でも目的を達成するために、各支部で工夫しながら取り組み、主題・副主題の解明に迫りたい。

4 3年次の研究計画と研究分野

(1) 研究計画

- ① 主題研修会（5月上旬 郡山市内中学校）
 - 主題・副主題の確認
 - 研究内容・方法の確認
- ② 主題研修報告会（5末日まで 各支部）
 - 主題研修会の報告
 - 支部研究計画の立案
- ③ 支部研究協議会（7月下旬まで 各支部）
 - 研究実践の経過報告
 - 以後の研究の進め方の確認
- ④ 県研究協議会会津大会（10月）
 - 公開授業（会津坂下町立坂下中学校）
 - 代表支部の研究発表と協議
- ⑤ 県大会報告（10月～11月 各支部）
- ⑥ 研究部報第51号の発行（3月）
 - 本年度研究のまとめ
 - 新主題及び3年間の副主題の解説

(2) 研究分野

- 1年生 } 各自が地理的分野と歴史的分野の
- 2年生 } いずれかを選択
- 3年生…歴史的分野、公民的分野

《参考文献》

- ・岩田一彦 (2001) 『社会科固有の授業理論 30の提言』 明治図書
- ・小原友行編著 (2009) 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン中学校編』 明治図書
- ・澤井陽介 (2015) 『社会科の授業デザイン』 東洋館出版社
- ・森分孝治 片上宗二編集 (2000) 『社会科重要語句300の基礎知識』 明治図書
- ・文部科学省 (2008) (2014一部改訂) 『中学校学習指導要領解説社会編』 日本文教出版

「平成28年度福島県中学校教育研究協議会県北大会を終えて」

福島支部社会科副部長（福島市立福島第一中学校） 齋藤 真

今年度は、研究主題「社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうか」の2年目、副主題「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」について、各地区で研究・実践が行われてきました。

今年度の県北大会は、福島市立北信中学校を会場として行われました。それまでに福島支部では、部報第49号の「授業を構築する際のポイント」から、「②学習課題の工夫」と「③資料選定・活用の工夫」「⑤振り返りの工夫」に重点を置き研究を進めてきました。夏の研究協議会で会員の先生方から授業づくりのアイデアを出していただき、それらを基に研究推進委員の先生方と授業者の先生とで指導案の検討を行ってきました。大会当日は、上記の研究成果を公開授業で見えていただき、その後、授業についての研究協議を行いました。

午後は、各支部の代表会員の皆様方から各支部の特色を生かした研究の取り組みや成果について発表していただくとともに、研究副主題並びに「授業を構築する際のポイント」について活発な意見交換がなされ、大変有意義な研究協議となりました。今大会で話し合われた内容を基に、各支部においてさらに研究を深め、来年度の副主題「表現する力を高める指導の工夫」に生かしていけるものと期待しております。

最後になりましたが、開催地区として多大なるご協力をいただきました伊達支部、安達支部の皆様方、指導助言の先生方、授業並びに会場を提供していただきました北信中学校の先生方、参加していただきました各支部の先生方、ご理解とご協力をいただきました福島支部会員のおかげをもちまして、本大会を無事に運営することができましたことを心より感謝申し上げます。

「平成28年度福島県中学校教育研究協議会県北大会に参加して」

鮫川村立鮫川中学校 佐藤 良央

今回の県北大会では、事前に会場アクセス案内や交通規制案内など、大変丁寧な情報提供があり、安心して参加することができました。会場校となった福島市立北信中学校の先生方や生徒たち、県北地区の先生方に快く出迎えていただき、大変感謝しています。開会式の後、私は、歴史的分野の公開授業に参加させていただきました。福島支部では、今年度の研究副主題である「根拠を基に思考・判断する力を育てる指導の工夫」に迫るために、「学習課題の工夫」、「資料選定・活用の工夫」、「振り返りの工夫」の3つを授業構築のポイントとして取り組んでいました。公開された授業の中では、生徒が比較しやすいように興味深い資料の提示をしたり、振り返りを可視化できるようホワイトボードを使用したりするなど、様々な工夫が見られました。

研究協議会では、代表支部として東西しらかわ支部の取り組みについて発表させていただきました。また、副主題に迫るための話し合いでは、自己肯定感を高める実践、地域の歴史を取り上げ副主題に迫る実践、単元構想図の中に根拠となる事項や手だてを取り入れた実践など、各支部の工夫ある取り組みが紹介され、有意義な研究協議となりました。ご指導いただいた内容等に関しても、後に支部で発表・伝達を行い、来年度以降につなげていくことで共通理解を図ることができました。

県大会に参加させていただき、各支部の先生方の実践や多くの先生方と意見交換をすることができ、とても貴重な機会となりました。今回の経験を今後の授業実践に生かし、一時間一時間の授業を大切につくっていきたいと思います。

29年度各支部代表の参加分科会配当表

		福島	伊達	安達	郡山	岩瀬	石川	田村	し東 ら西 かわ	北会 津	耶 麻	両 沼	南 会 津	相 馬	双 葉	い わ き
29	地理		○	○		○	○		○	●	○			○		●
	歴史	●		○	○	○		○	○			●	○			○
	公民	○	○		●		○	○		○	●	○		○		

●=発表 ○=参加 □=県大会開催地区